

◎特集 建設業女性就業者座談会

若者のものづくりへの憧れ 応える産業に

～建設業で働く女性が考える 若年入職者をどう増やすか～



渡邊 裕子さん



山口 悦子さん



平田 昇美さん



柴田 沙耶華さん



伊藤 泰栄さん

建設業界はいま、他産業と比較して高齢化が進んでいる。若い入職者が減少し、技能者・技術者不足という課題に直面している。少子高齢化で若い働き手が減少していく中、建設業界が今後も発展していくためには、若年入職者を増やすことが重要となる。そこで、建設業界で働く女性の視点から、仕事の魅力や、建設業の若者離れへの対策を話し合ってもらおうと、国土交通省中部地方整備局、愛知県建設業協会、建通新聞社が共同で座談会を開いた。建設業に魅力を感じ、覚悟を決めて入職した女性たちの意見から、問題点や、超えていくべき課題が見えてきた。

出席者

伊藤 泰栄さん(東海建設)
柴田沙耶華さん(小原建設)
平田 昇美さん(東海緑化)
山口 悦子さん(オノコム)
渡邊 裕子さん(横井業務店)



―ご自身のお仕事と、現場で普段見ている若者の入職状況からお話し下さい。

山口 オノコムの山口です。入社2年目です。現場監督として、主に商業施設など、法人の建物の仕事に携わっています。現場では所長の下について、職人が作業しやすいよう段取りする仕事をしています。

平田 特殊な技術の継承が大切

柴田 職業選択で待遇面は考えず

山口 マイナスイメージにも覚悟

私は大学は建築学科でしたが、50人のうち40人が男性、10人が女性でした。女性では私を含めて2人が建設会社に入社しました。男性で建設会社に入社したのは1割くらいです。

渡邊 横井業務店の渡邊です。左官業の会社で、現場で働いて10年目です。

ここ数年、辞めていった若い方がかなり多いと聞きます。私のまわりでも、若い人がずいぶん減りました。仕事が少ない時期が続いたので、生活していけないからと辞めたとか聞きます。仕事に慣れた職人でも辞めなければならない状況では、企業も若い人を入れられないです。

山口さんもおっしゃるように、現場は本当に年配の方が多いです。20代、30代前半の上は50歳を超える方ばかりです。働き盛りの40代、50代前半の方はほとんどいません。他の業種も同じような状況だと感じます。

平田 東海緑化の平田です。22年目に入りました。

昔に比べるとやはり若い方が少なくなっていると感じます。特に石屋さんなど、特殊な技術が必要で、一人前になるのに時間がかかる職業は若い人が少なく、高齢の方が多くなっています。特殊な技術を継承することが大切なのに、継承者がいなくなっています。

伊藤 東海建設の伊藤です。5年

ことに携わりたいと思ったので、覚悟して思い切った飛び込みました。実際に働いてみると大丈夫でした。

平田 昔は時間外労働が多かったのでも、きついというイメージを持たれていないと思います。しかし実際は9～17時が普通になっけています。土日の作業はほとんど忙し時しかありません。

私の会社は人が少なすぎるという方針です。いい人がいれば採りたいのですが、求を出してもなかなか来ないという状況です。企業としても即戦力を欲がって、ゆとりを育てるという余裕がありません。即戦力というところになる

と年配の方になる。本来は業界が若者を育てていかなければいけないのに、業界自身が高齢の流れをつくっている面もあります。

伊藤 監督業はきついイメージで、辛いことはそれほどありません。しかし技能者の世界は士関係がもっと厳しいようなので、それに耐えられないというケースもあるかもしれません。若い世代は我慢ができない世代など言われますが、人の性質が変わってきていて、古くは耐えられないこともあったりします。

―皆さんはどんな期待を持って建設業を仕事として選ばれましたか。また、実際に働いてみて満足されていますか。

山口 小さい頃から模型をつくるのが好きで、実際の建物にはじやうてできるのが興味を持ちました。自分の手でつくってみたいという夢をかなえるため、建設業界に入りました。

伊藤 監督業はきついイメージで、辛いことはそれほどありません。しかし技能者の世界は士関係がもっと厳しいようなので、それに耐えられないというケースもあるかもしれません。若い世代は我慢ができない世代など言われますが、人の性質が変わってきていて、古くは耐えられないこともあったりします。

―皆さんはどんな期待を持って建設業を仕事として選ばれましたか。また、実際に働いてみて満足されていますか。

山口 小さい頃から模型をつくるのが好きで、実際の建物にはじやうてできるのが興味を持ちました。自分の手でつくってみたいという夢をかなえるため、建設業界に入りました。

伊藤 監督業はきついイメージで、辛いことはそれほどありません。しかし技能者の世界は士関係がもっと厳しいようなので、それに耐えられないというケースもあるかもしれません。若い世代は我慢ができない世代など言われますが、人の性質が変わってきていて、古くは耐えられないこともあったりします。

―皆さんはどんな期待を持って建設業を仕事として選ばれましたか。また、実際に働いてみて満足されていますか。

山口 小さい頃から模型をつくるのが好きで、実際の建物にはじやうてできるのが興味を持ちました。自分の手でつくってみたいという夢をかなえるため、建設業界に入りました。

伊藤 監督業はきついイメージで、辛いことはそれほどありません。しかし技能者の世界は士関係がもっと厳しいようなので、それに耐えられないというケースもあるかもしれません。若い世代は我慢ができない世代など言われますが、人の性質が変わってきていて、古くは耐えられないこともあったりします。

―皆さんはどんな期待を持って建設業を仕事として選ばれましたか。また、実際に働いてみて満足されていますか。

伊藤 現場で働く人が話す機会を

渡邊 何度も見せて現場の理解に

伊藤 ちょっとした体験学習でもいいのではないだろうか。そういった仕事の積み重ねで建設業が成り立っていることが分かってもらえないかなと思います。

伊藤 ちょっとした体験学習でもいいのではないのではないだろうか。そういった仕事の積み重ねで建設業が成り立っていることが分かってもらえないかなと思います。

(構成・文 報道部 滝麻友)

これが建設業界に入ってきたのです。そういった若者たちに応える産業でなくてはなりません。若者の入職を促進するには何が一番重要と考えますか。

山口 イメージアップできないでしようか。悪いイメージばかり植え付けられましたが、入ってみたらそうでもありません。しかしそれを一般の人には分かってくれられないと思います。

平田 私の会社では、各現場代理人が工夫し、職人の仕事を一般の人に見てもらい取り組んでいます。普段の仕事を見てもう一つのう方舎に現場を見せています。これまでに見学会や子供の体験学習をやったこともあります。近隣からの音や振動へのクレーム対策としてやっています。

伊藤 昨年度、母校の企業展に行きました。学生は会社に入ったら何をやるのかイメージできていません。実際に現場に出ている人の話を聞きたがっていました。人事担当者は現場を知らないケースも多いので、現場に詳しい人と話す機会が必要だと思っています。

渡邊 現場を見せることだと思います。2度、3度、同じ現場を見ることが大切です。最終の仕上げの工程は分かるかもしれませんが、中に隠れてしまつ工種もあります。何度も見ることで一つの工種がどんな意味を持つのか、流れが理解できるようになります。

柴田 現場見学は高校生、大学生もいですが、小学生に社会見学の感覚で、どうやって建物を作っているかを見てもらうのもいいと思います。私自身は現場を見る機会はありませんでした。小さい頃から現場を見ることで、興味を持つのも一つのきっかけになるのではないのでしょうか。

渡邊 高校、大学で就職を決める時ではなく、小さい時に体験させて意識を持ってもらうことは大切だと思います。

伊藤 ちょっとした体験学習でもいいのではないのではないだろうか。そういった仕事の積み重ねで建設業が成り立っていることが分かってもらえないかなと思います。

―建設業は長い間、男の世界だといわれてきました。そんな建設業であっても生き生きと仕事をしている女性のみなさんがいる。そのことを広く知ってもらつことも大きなPRになりそうです。今後の活動に期待しています。

伊藤 ちょっとした体験学習でもいいのではないのではないだろうか。そういった仕事の積み重ねで建設業が成り立っていることが分かってもらえないかなと思います。

伊藤 ちょっとした体験学習でもいいのではないのではないだろうか。そういった仕事の積み重ねで建設業が成り立っていることが分かってもらえないかなと思います。

建設業をさらに魅力ある産業に

一般社団法人愛知県建設業協会は、建設従事者の雇用改善、女性や若年層の就業促進・育成・定着活動など、建設産業のさらなる発展を目指した取り組みを進めています

一般社団法人 愛知県建設業協会

会長 増永防夫 副会長 徳倉正晴 藤本和久 鈴木康仁 瀧川和宏 山田厚志

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-28-21 愛知建設業会館内
TEL<052>242-4191 FAX<052>242-4194 <http://www.aikenkyo.or.jp/>